

令和6年度第2回海上の森運営協議会議事録

日 時：令和7年3月19日（水）
10:00～12:05

場 所：あいち海上の森センター研修室

出席者：委員9名、事務局12名
（傍聴者1名、記者0名）

1 あいさつ

あいち海上の森センター所長 藤野 繁春

2 協議事項等

（1）報告事項

- ア 令和6年度海上の森保全活用事業の取組について（資料1）
- イ 令和7年度海上の森保全活用事業計画について（資料2, 3）
- ウ 海上の森自然環境保全地域維持管理事業について（資料4）
- エ 海上の森保全活用計画2025の進捗管理について（資料5）
- オ 第3次海上の森保全活用計画の策定について（資料6）

（2）その他

(報告事項 ア について事務局から説明)

【座長】はい、ありがとうございます。それでは、これまでのところでご質問、ご意見、なんでも。よろしくをお願いします。

【〇〇委員】先ほどの「SNS による情報発信」というのをやっていたいいるのですけれど、ちょっと個人的な要望というか、最近「海上の森に行きたい」という人たちが色々出てきて、私たまたまこれに関わっているものですから、例えば春の晴れた日曜日に春の花を見たい、今週の日曜日に来る、という予定の人がいるのですけれど、「今週のこの日に花が咲きました」とか、例えばハルリンドウの花が咲いているかいないかだとか、そういう部分の情報っていうのを平日に受け取ると次の日曜日に「こっちのコースまわろうかな」とか、そういう計画を立てやすいので、そういう開花情報ですとか「今この季節にこれが見られます」とか。やっていらっしゃると思うのですけれど、今年もぜひお願いしたいなど。よろしくお願ひいたします。

【事務局】先ほどの情報につきましては、海上の森の会で「生物季節調査」ということで毎週木曜日にまわっていただいておりますので、その結果をアップしていますので、その部分を見ていただくといいかなと。

【〇〇委員】それは逐次、目玉のものとかを。

【事務局】最新で1週間くらいの情報をあげておりますので。

【〇〇委員】そうなんですか。ありがとうございます。じゃあそれを続けていただければと思います。

【座長】はい、他にいかがでしょうか。

【〇〇委員】海上の森の会ですけれども、この「資料1」は県がやった事業だけですか。

【事務局】そうですね。

【〇〇委員】これを読んでいると、例えばボランティア団体のような名前も出てくるんですけど、資料1だけ見ていると「森の会が何もやっていない」ように見える。書いていないということは「何もやっていないのか」ということになるので、入れていただきたいなど。

【事務局】それを作ろうとすると、関連する団体全部に聞き取って資料を作るということでもよろしいですか。

【〇〇委員】一応県と協定結んでやっている以上は県が半分、森の会が半分とは言いませんが、活動計画、事業計画の中ではあるんだから、そういうのはちゃんと何らかの形で付していないといかんのじゃないのかなと。ちょっとやっかみですけど、すいません。気持ち的に、「海上の森の会が何もやっていない」ように見えるから。例えば企業連携のところに持ってくるのもいいし、森林整備も月に2回から3回やっているんで、こういうところに名前が載っててもおかしくないんじゃないかなという。やっかみですけど、申し訳ないけれども。

【座長】里と森の教室は海上の森のほうで。

【〇〇委員】やっているんですけど、これはどちらかという県受託事業に近いものから、まさしく県の事業。これははっきり言えますけれど。そのうえにはボランティアだとかもありますけれど、そういうところとか、自然調査なんかもやっていますし、森林整備なんかもやっています。そういうところに名前が載っていてもしかるべきじゃないかと。

【座長】森林整備のやつには出てこないですね。

【〇〇委員】出てこないで「さみしいな」という気持ちを含めて。すいません。

【座長】僕もなんか違和感があって、県と海上の森の会とか、協働事業としてやっている部分もあって、委託・受託ということもあるので。

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

このワタミの間伐ってというのは、作業は誰がやられたのですか。

【事務局】担当の〇〇といいます。作業はワタミさんが地元の造園業者さんに委託して伐っていました。

【座長】搬出もその業者さんが。

【事務局】はい。業者さんにやってもらっています。

【座長】搬出してからはどうなるんですか。

【事務局】木自体がうちじゃなくて県有林事務所のものになりますので、今一時的に入口駐車場の奥に置いてあります。今後、県有林事務所が売買契約を結んでそこに引き渡す形で。

【座長】ワタミさんに、ってことですか。

【事務局】ワタミさんじゃなくて。

【座長】 あ、別に。

【事務局】 その一部は県有林事務所からワタミさんが買い取る部分の木もあります。一部買取と、一部県有林として出す、という形です。

【座長】 その費用はワタミさんが出す。

【事務局】 出す、という。

【座長】 なるほど。いつもはセンターが出している分をワタミさんが出している、ということですね。わかりました。他にいかがでしょうか。

【〇〇委員】 1 ページ目の「維持管理」のところの「危険木の伐採」のところで、今年は大きな倒木があったとのことですが、何か原因があるのかということと、作業されるところは歩道のあるところを作業されているということで、歩道のないところでは倒木は多いのかどうか。その影響が気になりました。

【事務局】 倒木につきましては、ほとんどが枯損木、枯れた勢いがない木が梅雨時に雨、水分を吸って重くなって自分の体が支えられなくなって倒れるというパターンが非常に多くみられます。ですので、こういう倒木があるのは腐った木で、雨が降ってしばらく時間が経った後に、雨が降っていないけれどいきなり倒れてくる、ということが多いです。除去しているのは、やっぱり安全第一ということで歩道は第一で、山の奥のほうで倒れてもよっぽどでなければそれをまた刻んだりはしていなくて、全部把握しているわけではないです。山の奥のほうで倒れて把握していない木もあるかもしれないですけども、歩道と道路は必ず除去するようにしていて、奥のほうは残念ながら手を付けていないものもあります。

【〇〇委員】 はい、ありがとうございます。歩道のところは巡視されて。

【事務局】 歩道のところは最低限巡視して確認するようにしています。

【座長】 よろしいですか。

【〇〇委員】 はい。ありがとうございます。

【座長】 倒れたっていうのは分かるんですけど、倒れてきたら危ないですよ。歩いているときに倒れてきたら。

【事務局】 「危険木の除去」といって、危険だと思うものは業者に委託して伐採しているんですが、安全だと思っても倒れてくることもあるかもしれないので、「絶対に安全だ」

とは言えない部分はあるんですけども。

【座長】危険木の除去はどれくらい年間でやるんですか。

【事務局】毎年毎年。100本くらいいくのかな。

【事務局】治山事業ですと50から70本くらい。道沿いの伐採で。枯損木の調査をしているんですけど、職員や個々でやっているものを含めると、実際にはその倍近くです。

【座長】それくらい毎年いつているわけですね。

【事務局】不思議と、毎年伐っても伐ってもまた出てきていて。

【座長】それはまあ。枯れてきますからね。遷移が進んでいるので、広葉樹、落葉樹のほうがか枯れてくるんですよ。

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいですか。ではまた何かありましたら。

続いて、資料2と3のほうの説明をお願いします。

（報告事項 イ について事務局から説明）

【座長】では、ご質問、ご意見、よろしくお願ひいたします。

【〇〇委員】写真展示の応募について、応募は3月25日から8月25日までということですが、展示は替えながら、ということですか。

【事務局】そうです。全部は飾ることができないので、入れ替えしながら、という形になるかなと思います。

【〇〇委員】応募方法っていうのは、どんなふうでしょうかね。データで応募だとか。

【事務局】そうですね、基本的にはデータで。

【〇〇委員】データをメールで送る。

【事務局】はい。メールで送っていただくことになります。

【〇〇委員】その宛先は、どこかに書いてあるんでしょうか。SNSとか。

【事務局】そうですね、もう少ししたら発表になりますので。

【〇〇委員】 SNS を見ればわかるようになっているんですかね。

【事務局】 そうですね、はい。あとはうちのホームページとかでも。

【〇〇委員】 あ、そうですか。ありがとうございます。

【〇〇委員】 いいですか。

【座長】 はいどうぞ。

【〇〇委員】 センターの運営費ですけれど、3500 万くらいついています、ウッドデッキの修繕が 1800 万くらいあるということで、そうするとそれを引くとほとんど少ないんですけど、これ去年も何か工事があったんですかね。

【事務局】 去年もウッドデッキの工事と、あとは遊歩施設の工事を行っておりますので、これが大きく減っているかと。

【〇〇委員】 だいたいそのくらいですか、この運営費は。なるほど。

【座長】 他にいかがでしょうか。

【〇〇委員】 あとちょっと、関連でよろしいですか。すいません、ちょっと私のほうでお配りしているチラシというか A4 の 1 枚の紙をちょっと見ていただきたいんですけども、あいち海上の森フォーラムですが、できればこれも 20 周年の記念大会ということで、時期が 10 月くらいを考えているので期間から外れますけれど、オリエンテーリングマップということで、海上の森の中をポイントを決めて、ここに置いてある 12 の質問事項を答えていただくということでですね、海上の森をぐるっとまわっていただくようなことを考えておりますので、また具体的に決まりましたらお知らせしたいと思いますので、ご協力のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

【座長】 はい、ありがとうございます。

この「伐採木の活用の森林整備」というのはどの程度。木を伐るんですか。

【事務局】 そうですね、太さとしてほしい 5cm くらいの木ですね。今、この本館の建物の入口あたりに薪が積んである建物があるんですけども、その「2 杯分くらいは欲しいな」ということでしたので、それが溜まるくらい伐れたらと思っています。

【座長】 広葉樹ですか。

【事務局】 そうですね、はい。

【座長】 広葉樹の 5cm くらいのやつを手ノコで伐ってやる感じですか。

【事務局】 そうですね、一般の方々でもできるようなイベントでやりたいなど。

【座長】 はい。他にいかがでしょうか。

【〇〇委員】 今言われた「ロゲイニング」ですけれど、設置されたポイントに寄るということで、瀬戸とか長久手のほうも入れるわけですか、ポイントに。

【事務局】 そうですね。海上の森ではなくて、街のほうを巡るようなものになっています。2 月にお試し会をしたんですけれども、その時にも 100 人くらいの方に参加していただいて、本格的に走るような恰好で皆さん来られていて、たぶん海上の森センターには初めて来られるような方が多いのかなというような感じでしたので、「センターを初めて知る」ということについてはすごく良い催しなのかなと。

【〇〇委員】 それはどうやってまわるんですか。

【事務局】 走っていますね。

【座長】 結構な距離なんですね、じゃあ。

【事務局】 そうですね、3 時間のコースと 5 時間のコースで、その時間走り続けるという。

【座長】 それが何で万博 20 周年なんだろう。どうなんですかね、どういうコンセプトなんですかね。

【事務局】 コンセプトとしては「海上の森を知ってもらおう」というのと「瀬戸の地域を振興する」というのをあわせて、瀬戸市とタイアップしながらやっていくということで、海上の森センターを発着にして、遊歩施設の 5ha はその中にポイントを設けつつ、あとは瀬戸の史跡だとか、そういったところのポイントにあわせて、瀬戸市の観光協会だとかとタイアップしながら、このエリアを盛り上げて、いろんな人に訪れてもらいつつ、海上の森や陶磁美術館など色んな施設がありますので、というような企画です。

【座長】 なるほど。瀬戸市さんも結構絡んでいる。

【〇〇委員】 そうですね、自然体でこの取組については瀬戸市をあげて取り組んでいこう、ということで。ちょっと私がちゃんと十分な理解をできていないのでいけないんですけれど、観光課の職員のほうには声がかかっておりまして、参加させていただくことになっています。

【事務局】長久手のモリコロパークや海上の森センターと、両方のエリアになっていますので、相当広いエリアを3時間コース、5時間コースで、という形で、色んな方々にこのエリアを知ってもらおうというものです。

【座長】はい、ありがとうございます。他に、よろしいですか。では、次に行っていただきたいと思います。資料4の「自然環境保全地域維持管理事業」について、自然環境課のほうによろしくお願いします。

（報告事項 ウ について事務局から説明）

【座長】はい、ありがとうございました。では自然環境のほう、ご質問、ご意見よろしくお願いします。

【〇〇委員】スミレサイシンの方、愛知県の隔離分布したこの個体分布に関しては「両性生殖がほとんどない」ということですね。ほぼ単為生殖といいますか遺伝的に全個体がほぼ同じ遺伝子になっている可能性が高い、ということですね、この結果からすると。で、そこらへんについては、今後この個体群の継続性といいますか、このまま普通に考えたら先細りになっていくと考えてよろしいのでしょうか。

【座長】それは、まず〇〇君はどう思いますか。

【事務局（名古屋工業大学 〇〇氏）】種子繁殖、今年は花をつけたものが少なく、でも個体数としては例年よりも増えているんです。「個体数は増えているけれど花の数は減っている」ということは、「花をつけないけれど生まれてきたよ」という個体がいっぱいいると。で、「閉鎖花」というのは、スミレサイシンは果実をつけて種を作る性質にあって、種から生まれた個体っていうのは遺伝的に分化しやすいというか、いろんな遺伝子をもった子孫が生まれてくる可能性が高いので、私の結果をみると、今までよりかはちょっと多様性は増加傾向にあるといえるかと思います。

【〇〇委員】逆なんですね。両性生殖じゃなくて単為生殖のほうがかえっていろんな遺伝子のバリエーションがのりやすい、ということなんですか。

【事務局（名古屋工業大学 〇〇氏）】そうですね、種で撒いたほうが。

【〇〇委員】ありがとうございました。じゃあ遺伝的には先行き明るいというか、環境の例えば人間の手を入れ続けなければいけないけれど、放っておいたらまた笹がぼうぼう生えてきて、自然の遷移がもうないものですから、人間が手を加え続ければ個体群的には増えて

いく可能性というのはある、ということですかね。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】そうですね、さっきの電気伝導度の話もありましたけれど、こういう影響を及ぼす要因みたいなのもちょっとずつわかってきてはいるので、そこをうまく取組みながら効率的な保全活動ができれば、復活というか伸びていく可能性があると思います。

【○○委員】ありがとうございます。

【座長】今の EC の話は、EC が高いほうがいいのか低いほうがいいのか。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】私の解析結果でいうと「低いほうがいい」となっているんですけども、先行研究で一般的には「高いほうに集まりやすい」という結果になっているので、ちょっと矛盾しているなっているところがあります。ただ、統計ってというのはやっぱりどのデータ範囲をもって解析をするのかで結構結果が大きく違いが出てくるので。

【座長】まだはっきりしたことが言えない、ということなのね。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】そうですね。

【座長】貧栄養がいいのだったら EC が低いほうがいいわけですし。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】そうですね。

【座長】はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

あの○○さんの話でカザグルマの話、僕ちょっとついていけなかったんですけど、カザグルマはどこにあるんですか。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】説明がすごく難しいんですけど・・・

【座長】ば〜っと散らばっているわけ？どこかに集中している？

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】結構集中したところに。僕が知っている調査地でいうとそこに結構集中していて。100mくらいですかね。

【座長】道沿い？

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】道というか、山というか、そこに結構点在している、という感じですね。

【座長】明るいところは好きなわけね。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】そうですね、「暗いと枯れちゃう」というイメージがあります。途中で「これはもうだめだ」というような個体も結構多くて。あと抜かれている状態のやつも結構あって。

【座長】盗掘？

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】盗掘というよりは、イノシシとかのまあまあ大きな個体が。上に浮かんでいる状態になっていることが多くて。

【座長】掘られた、っていうことね。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】あとは台風とかで木が折れて、その木に巻き付いていた個体が抜けているとか。そういうのが結構みられました。

【座長】なるほど。場所としてはどういう場所なのですか。広葉樹と常緑樹が混ざっている場所、ということですか。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】そうですね。

【座長】人工林ではない、という理解でいいですかね。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】人工林ではないですけど伐採はしているので。たぶん常緑樹の伐採をしてきていて、そういう人間の手は入り込んでいます。

【座長】それは誰が伐採している？

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】2年前か去年に、うちの研究室が確かやっていたように思います。確かやりとりしてやっていたので。

【座長】その結果広葉樹が増えている、ということですか。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】そうですね。

【座長】広葉樹は増えているけれど、カザグルマにとってはどうなんですか。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】なので成長率との相関とか解析をしたところの話で、成長率のそもそもの測り方を変えていくべきかなと。つる性なので長さがしっかり測れないというのと、今回高さで長さを求めてみたのですけれどもうまく出せなかったので、また別の指標を作って色々やろうかなと思っています。

【座長】個体数的には増えた？

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】増えました。

【座長】増えたんですね。それは「光環境の改善によるもの」とはいえない？

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】まだ1年しかできていないので、またもう1回伐採するなり何なりで。

【座長】それはその後か。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】そうですね。

【座長】その後じゃないといえない、ということですね。はい、わかりました。ほかいかがでしょうか。

【○○委員】カザグルマは名古屋市内にも1か所あるんですけど、生えている環境というのは灌木があんまり密集して生えていない。個体数も継続してあると思うんですけど、広葉樹もあるんですけど背の高いのはなくて、人の手も入っていないんですね。夏はカザグルマだけじゃなくて色んなつる植物がお互いに絡まりあって生えている。で、背が2mくらいの木に絡まって生育して花も咲いているという状況なんですけれど、それがずっと続いているところなんです。そこは個体数もほぼ変わらずに続いていて、人間の手も入ってなくて、藪という程でもなければ、大木が生えていないということで地べた的には栄養のないところだと思うんですけど、そういうところで結構生息しています、ずっと。そこらへんが関係あるのか参考になるのか分からないですけど、そういうところで生えているのを僕はみたことがあるので。

【座長】結構厳しいところで生えているんですね。

【○○委員】そうですね。

【座長】はい、ありがとうございます。○○さんどうぞ。

【○○委員】ちょっと私専門性がないので純粹なところでお伺いするんですけど、お2人が一生懸命1年間やってこられたのはすごく伝わってきたんですけど、ちょっと仕組みがよくわからないんですけど、○○先生のゼミの中でお2人が一生懸命頑張られたこの調査結果というか、そういったものは先輩から受け継がれて後輩たちにも受け継がれて、この生きたデータが今後発展的につながっていくのかどうなのかなという純粹な意見です。どんな仕組みになってこの貴重な財産をこれからどうなっていくんだろうというところだけちょっと気になったので。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】今僕が3代目です、カザグルマの調査が。で、次来年

やる子も決まっっていて、スミレサイシンも今日来年やる子連れてきていて、という感じで続いている。前年度の比較ということで、今回はここには載せていないのですけれど、そういうのも一応やっていたりはするので。

【〇〇委員】じゃあもう襷は渡されていて、最終的には皆さんの成果が〇〇先生のところに蓄えられていくみたいなそんなイメージですかね。

【事務局（名古屋工業大学 〇〇氏）】そうですね。

【〇〇委員】おもしろいですね。ありがとうございます。

【事務局（名古屋工業大学 〇〇氏）】ちゃんとうちの研究室のテーマを考えたときに、とりあえずカザグルマとスミレサイシンは先に決めて、残りの人は他のことをやって、みたいな感じにはなっています。

【〇〇委員】お疲れ様でした。

【座長】僕が気になっているのは、それを〇〇先生の厚意でやっていただいているというのがね。何ら仕組み的なサポートがない中で自発的にやっていただいているので、逆に言うと〇〇先生の気が変わったら終わっちゃうので、何かそこをサポートする必要があるんじゃないかと常々思っているんですけど。そのへんはどうですか、自然環境課さん。

【事務局】そうですね、現状契約関係一切ないところになりますので、完全に厚意でやっていただいているところでございまして。

【座長】なんかこう、連携協定なり何なり、そんな大げさなものじゃなくていいんだけど何かあるといいなと思いますし、ここで報告していただいている話題ですが、これって何かに載るんですけど、他の報告書とかに。

【〇〇委員】この今のカザグルマの研究成果は去年フォーラムで発表していただいて、去年の分はここに載せさせていただいております。

【座長】何か、センターのほうでもこの一件を蓄積していくようなものがあるといいなと思いますけれど。ちょっとご検討いただければ。せつかくこれだけいい研究をずっと継続してやっていただいているので、活かしていただければと。

〇〇さん、いかがですか。

【〇〇委員】話が戻っちゃうのですけれど、〇〇さんのお話のところでは森林の状況を議論されていたと思うのですけれど、結果のところでは、湿地が回復していて復元、貧栄養化が進んでいるとあったのですけれど、保全して有機物を除去するようなことをしていたとかです

か。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】そういうことは一切していません。

【○○委員】ここでいう「湿地復元」というのは。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】そうですね、何が原因でそうなったかはわからないんですけど、結果としてそうなったのではないかなと。

【○○委員】そうなんです。そこは湿地なのですか。

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】そうですね、あそこは一応湿地帯で、そこに草とかが生えたり、湿地ではない方向に行ってしまうと、栄養がいっぱいになっちゃうとカザグルマより強い個体が生長できるようになってカザグルマがどんどん少なくなってしまう、というのが問題視されていて、貧栄養になることによって、貧栄養じゃ生きられない強い個体がいなくなることでカザグルマが生きられる。貧栄養になるということは植生の遷移を止めることでもあるので、いいことではあると思います。

【○○委員】貧栄養のほうが原因？

【事務局（名古屋工業大学 ○○氏）】貧栄養のほうが適正な。

【○○委員】なるほど。すいません、原因と結果のところちょっと。あとは、栄養状態が、湿地条件というのは栄養状態で決まってくるのか、スミレサイシンの方では土壌水分も調べられたと思うのですが、それがどうかでそこに栄養が蓄えられるかどうか、水分条件で湿地がどう維持されるのかもわかると思うので、そのあたりの知見もあるといいのかなと思います。

【座長】はい、ありがとうございます。他いがかでしょうか。

シデコブシの花の話は、最近だいぶ少ないなと思うんですけど、逆に言うと 2016 年から 2020 年くらいは結構あったけれど、そこから減っているようにも見えるんですけど、何か考えられることはありますか。このシデコブシの場所の管理を始めたのはいつですか。

【事務局】シデコブシの保全地域については、現在のような形で大和リースと協働させていただいているのは 2012 年の 11 月からです。

【座長】2012 年ですね。最初は効果がわって出たけれど、最近はなんかシデコブシも慣れてきて？

【事務局】なかなか、そうですね。改善には。

【座長】反応しなくなっている。

【事務局】そうですね。

【座長】というようなふうにも解釈できるのかなと思います。はい。他よろしいでしょうか。ではこれはまた引き続き調査をよろしく願いいたします。

では資料5のほうの説明をお願いします。

（報告事項 エ について事務局から説明）

【座長】はい、ありがとうございます。では、どこからでもご質問、ご意見いただければと思います。

【〇〇委員】最後の「企業連携」のところで、「企業さんからの相談があつて対応する」ということですが、具体的にはどういう相談があるんですか。支援をするといいますか。情報をお渡しするのか、具体的な支援をするのか。

【事務局】そうですね、「海上の森で活動をしたい」というような相談とかがございます。社会貢献したいということで色々調べられている中で海上の森があたったりすると、「万博もやったところだ」ということでいいネームバリューがあるようで。

【〇〇委員】それは、万博の話や知名度の話もありますけれど、今実際に活動されている企業さんが他の企業さんに話をして、っていう感じで問合せがあつたりするんですか。

【事務局】ホームページとかでも企業連携に関するページがありますので、そういうところで「こういうところがやっているんだな」というような情報を仕入れられています。

【座長】はい。他いかがでしょうか。

【〇〇委員】この「愛知万博20周年記念式典」はもう終わったんですか。いつやるんですかこれは。

【事務局】モリコロパークの記念式典は3月25日です。

【〇〇委員】ここには「記念品への間伐材提供」ってありますけれど、間伐材はもう提供したんですか。どんなものを記念品に。

【事務局】間伐材は提供しまして、スマホスタンドを作られて配られます。

【〇〇委員】 ペンスタンド？スマホスタンド？

【事務局】 スマホスタンドですね。

【〇〇委員】 スマホスタンド、ああ。

【座長】 はい。よろしいですか。他にいかがでしょう。

えっと、僕は毎回言っていますけれど、この「小面積皆伐の検討」ってずっと検討のまま 10 年経って何も動いていないし検討もされていないと思うので、これはいささか評価としてはいかがなものかと私は思っています。「小面積皆伐の検討」というとなかなかやりにくいんですけど、結局「この森をどうしていくのか」ということで、人工林のほうはずっと管理していくってことなんですけれど、広葉樹のほうは放っておけば常緑樹に遷移していくんで、それはほとんどの場所はそうせざるを得ない。だけど一部なり落葉樹の昔ながらの景観を取り戻す場所があってもいいんじゃないかなと思うんですよね。なのでそういうデザインをすべきだと思いますので、ぜひ次期計画の中で「小面積皆伐の検討」と言うんじゃないくて「森づくりのビジョン」というようなことで検討していただいて、具体的に「この場所でこういう森を作ろう」という、そういう計画を作っていただけるといいかなと思います。1 つの洞だけでもね、里山の景観があってもいいのかなと。「昔はこういう景観だった」と、それで「今はこんなんですよ」というのを対比してね、来た方々に見ていただけるような。もっと言えばその景観を作るところを講座にして。里山暮らし講座か何かで。すぐにはできないのでコツコツと、それこそ 10 年・20 年かけて作っていくっていうような、そんな感じでやれるといいのかなと思いますので。何か予算をつけてバーンとやるんじゃないくてね、コツコツ。

海上の森の会さんへのお願いがたくさん載っていますけれど、いかがでしょうか。

【〇〇委員】 いつも出る盗掘の話が依然なかなか、すぐはできないと思うのですが、この間もちょっと出ていたのがやっぱり「常に見ている」という形を作ることが重要かなと。それをどうするかと言ったら、「行き交う人たちの関心度」みたいな形であれば「ちょっと待てよ」という形になるのかなと。そういうところで森の会だとか関係する団体をうまく利用すればもう少し、ただ通りすぎるだけじゃなくて「私は監視しています」という、この間も提案が出ていたような腕章をつけて、というようなことでもう少し関心を上げていければなど。センターだけの看板と車にもシール貼ってあるんですけど「あっそう」で終わっちゃうような内容なので、やっぱり「常にあちこち監視されている」という体制づくりをしてもらいたいのかなと。

それからちょっとくどく言いますが、もう 1 つはトイレの話ね、私はあのトイレの話っていうのはこの保全計画の中では施設として重要な位置づけだと思うんですよ。このデッキの修繕も含めて。なので、トイレが 1 年半くらいほとんど使えない状況が現実的にあ

って、女性の方がトイレに困っちゃって。バケツを持ってトイレに行く、バケツをトイレまで持って行って水を流す。そういうことが1年以上続いていて、修繕はされているんですけど、やっぱり次期計画の中に盛り込む、施設整備として盛り込む、という話はやっていかなきゃいけないんじゃないかなと。1年間努力してもらって、私も何回もくどく言っているんですけど、なかなか直らなくて、ちよろちよろちよろちよろお金かけて。大きな金額をかけてあれを作られたと思うのですけれど、やっぱり限界が来ているんじゃないかなと。抜本的な改善を含めて、来年の計画の中に入れるわけにはいかないかもしれないですけど、事業の中に、ちょっと県としてもう考えてほしいなというのが。この施設を利用する方のためにもね、重要な施設なんで。それからもしあそこのトイレが使えなかったら手前のところで、駐車場にトイレあるものですから、看板、「奥のトイレは使えませんのでここで用を足してください」といえば気軽なんですけれど、奥まで行ってから「あつ、ちょっと待てよ」という話じゃ困るんで、施設全体のイメージをアップするためにもやっぱりそういうのをきちっと整備するのが重要かなと思いますので。今回もポンプを交換するということですけど、抜本的な対策が重要かなと思いますので、次期計画にこれも含めてやっていただきたいなという話。

それからもう1点ですね、もしいただけるなら、協働連携に小学校や大学の方がここに視察に来られるということがあるものですから、こういうところへ海上の森の会のメンバーを活用して、ボランティアできる場所を提供していただけるともっと違うシェアですとかそういうこともできるかもしれませんので、このへんも会のほうに紹介していただけると。他の団体もあるものですから、センターばかりで受けるんじゃなくて他の団体をうまく使うようなことを考えると多少いいのかなと。そのへんも含めて今後検討してもらいたいのかなと思います。

【座長】はい。いくつかご意見いただきましたが、ぜひご検討いただけると。

他にいかがでしょうか。

【〇〇委員】私が知らないだけなのかもしれないですが、壊れたトイレというのはどこのトイレですか。

【〇〇委員】サテライトのトイレ。

【〇〇委員】あ、サテライトのトイレ。

【〇〇委員】あそこは重要、要なので、あそこで集まって通っていくんで、要のトイレが調子悪いというのが一番。

【〇〇委員】私は男なんで何も感じなかったですけど、女性トイレも壊れたんですか。

【〇〇委員】女性トイレにも男性トイレにもバケツが置いてあります。まあ小さいほうはいいですけどね。大きいほうだと困られちゃうかもしれないですね、男性のほうでもね。

【〇〇委員】ああそうなんですか。

【〇〇委員】ですから、やっぱりトイレというのは要だと思うんですね、山の中に入るときに。また利用されるときに気を付けて見てください。

【〇〇委員】ありがとうございます。

【座長】はい。では〇〇さんいかがですか。

【〇〇委員】はい。そうですね、ずっとこの運営委員会に出させていただいて、本当に多面的ですよ。「海上の森」というのが。本当に様々な、森林整備から人材育成、色々なものがあって、企業連携だとか調査研究、そういったものがあって、どれだけ自分は全体像をフローでぱっと書きなさい、「海上の森運営委員としてどう把握していますか」って言われたときに、ここにビジョンがあって、海上の森をまずどうしたいかという大きなキャッチフレーズがあって、その下に森林整備、そして人材育成、調査研究、それに伴うものが下にざーっと細分化されてあって、それをお聞きしているのが今のこの「進捗管理」だと思うんですね。で、まずは「全体把握をする」っていうのがすごく大事で、1つ1つの問題・課題がすごく出ているんですけど、優先順位もつけなきゃいけないので、2025年新たなビジョン・新たな方向性を作るときにまずはそのフロー的な図面というか図化したもの、そしてそれは我々だけが理解するのではなくて、一般の方たちが「海上の森ってこんな多面的なんだ」って、でそこにはまずどういった「目指すもの」があるんだろうか、一言で言えば、って感じで、まず「海上の森が好き」「海上の森をどうしたい」「海上の森をどうすれば守れるんだろうか」「未来につなぐことができるんだろうか」、それが短い言葉でパッと出る、常にそれをショルダーコピーのように使えて、「我々はそれをいつもいつも持っている」、そしてそれは1年や2年ではなかなかすり込めないことなので、今後10年先を考えたときにそれがもう頭に入ってパッとと言えるくらいになればいいなと。新たにもう少し柔らかい感じとか平易な感じで。そして「こんなことをやっているんだ」。その中にはこちらを盛り込みたい、調査研究の継続とか、それからそのためには森を保全しなきゃいけない。でも保全にも色々ある。人工林から広葉樹から色々ある。でもそれはどういう結果を招いていくんだろうと。まずは大きな括りを、パッと自分たちが理解できるフローですね、それを学ぶフローラーニングがしたいなとつくづく思いました。

【座長】はい。じゃあ次期計画はそういう。あれですよ、「どういう森を目指しているか」っていうことが、こうやって書かれると見えてこなくなりますよね。なのでもちろん色々な場所があるので多様なんですよ。その中で「全体としてどういう森を目指していくのか」

というビジョンがもっとわかりやすく出てくるといいかなと思いますね。

はい、ありがとうございます。〇〇委員、いかがですか。

【〇〇委員】引き続き野鳥の調査をしていただきたいというのがありますけれども、確かモニタリングサイト 1000 との連携というのがこの資料のところにあったと思うのですけれども、それってというのは色んな植物とか昆虫とか野鳥も入っているのですけれども、環境省がやっているやつは 5 年に 1 回ずつ調査をしていると思うんですね。そうしたデータの集積というのはセンターがやられていてどこかの資料などで発表されるというのは今後やられるのでしょうか。してほしいなというのが私の希望なんですけれど。

【事務局】調査の結果については毎年 1 冊ずつ、そんなに部数はないので限られた人にしか配布していないのですけれども配って、過去 10 数年分のやつがストックしてありますので、見れるようにはなっております。

【〇〇委員】モニタリングサイト 1000 の調査ってというのは 5 年に 1 回の調査で、「100 年間変化をみよう」というコンセプトなんですね。毎年毎年調査も必要なんですけれども、大きな流れとしてはモニタリングサイト 1000 のデータを活用すると色んなものが見えてくるというのがありますので、そういったものもある程度並行して使っていただきたいと思うんですけれどね。

【事務局】モニタリングサイト 1000 につきましては、毎年まとめて報告していますので。

【〇〇委員】あ、コアサイトなんですねここは。海上の森は確か。

【事務局】そうですね。

【〇〇委員】そうすると毎年ですね。

【事務局】毎年です。

【〇〇委員】はい、わかりました。

【座長】何か鳥のことでお気づきになることとか。

【〇〇委員】そうですね、さっきも言った長い年月でいうと野鳥なんかは減っていると思うんですね。生息する野鳥の種類も変化があると思うんですね。そういったものをどう見ているのかなというのが 1 つあるのと、あとここは野鳥の繁殖地なものですから、「野鳥の繁殖に対してどのようなことをしていけばいいのかな」ということをもう少し考えていただけるとありがたいなと思いますね。で、ここで生息している・繁殖している鳥というのはほとんどが「里山の鳥」というふうに呼ばれるものなんですね。オオルリもそうですしキビ

タキもそうですし、サンコウチョウに関しては森林性だけでなく里山性なんですね。ですからそういったものが今後減ることなく続いていくという環境を整えるにはどうしていくのかな、というところが僕らも気になっているところです。

【座長】なるほど。遷移が進むとそういうのも棲みにくくなると。

【〇〇委員】そうですね、森林性がどんどん進んでいくと棲みにくくなると思いますね。

【座長】やっぱりどこか一部遷移を止める、というところが欲しいですね。はい、ありがとうございます。

〇〇さん、いかがですか。

【〇〇委員】今みなさんのご意見を聞いていますと、実際里で色んなことをやっているほうから見ると、本当に「20年前に戻りたい」という感じです。本当に何にもできていないのと、限界集落というのもすぐそこまで来てしまっているような気がして仕方がないんですね。ですから先ほども〇〇さんに「あの草むらどうしたらいいですか」と言っちゃいましたけれど、そんな気持ちですんで。「どうしたらそれをやれるか」ということ。一番最初に検討改善なんか色々やって、お多度さんの坂をあがってきてふぁっと開けたときに、あそこの緑の田の全部も水が蓄えられていたらいいなっていう感じでいつも言ってきたつもりが、それが本当に草むらになっちゃった。ですから悲しくてしょうがないんですけど、本当に私たちだけではとても手が付かないところまで今来ちゃっていますので、ですから何かいい案があったら反対にお聞きしたいと私は思っております。

【座長】この里のただ草を刈っているだけのところがたくさんあるし、草も刈れないところがありますしね。

【〇〇委員】〇〇さんに「草刈るな、草刈るな」と言われておりますので、今年からやめようかと。

【座長】そこを活用することで生物多様性が戻ってきますので、何かこう活用することをぜひ考えていきたいですね。

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいですか。

じゃあ資料6のほうの説明をお願いします。

（報告事項 オ について事務局から説明）

【座長】はい、ありがとうございます。私この検討委員会に出させてもらいまして2回やら

せてもらいまして、「みんなが言いたいことを言う」という会議になっておりまして。日頃気になっているところをとにかくどンドン出して、事務局に検討していただくということで、かなり激しい意見も出ていまして。なので委員の皆さんぜひ色々な意見を私でもいいし〇〇さんでもいいし、ちょっと伝えていただくとここに持っていきますんで、日ごろ思われていてここでなかなか言いづらいこともあると思うので、現場での感覚といたしますか、現場でどうしたらいいかという観点でご意見いただければ伝えますので、ぜひお願いします。さっきのトイレの話も出たし、森のビジョンの話も出たし。それから人工林の間伐はできているんですけども結局材が活用できていない。搬出してということになるんですけども全然海上の森センターと関係ないことになっていたりすることがあって「そのへんどうにかありませんか」というところもありますし、いろんな話題が出ておりますので、ぜひご意見いただければ。アカデミーのほうも10年やってきましたので、もう1回見直してリニューアルできればいいかなと思いますので、またそのへんご意見いただければと思います。はい。この件についてご意見、ご質問あれば。よろしいですか。

【〇〇委員】先ほど〇〇委員から話いただきまして、学術的な調査だとか研究うんぬんよりも先に、里山の生態系保全というものに関してはそこで人が経済活動だとかをして、その中で生物多様性も自動的に守られるというところで、その人手の問題ですとか住んでいる人、そこに生活している人がいる・いないだけでも予算的にも人間的にも今やっている問題の半分くらいが解決しちゃうんじゃないかと。非常に根本的な問題だなというのがよくわかったんですけど。かといって私が何かいい案があるかという無いですけれど、たまたま森の出入りが結構あって、間伐材も活用があるにしても色々やられている。あとは水辺の部分について、先ほど草刈りの話をされたと思うのですが、田んぼを食料自給率とかの問題もあってうちの周りなんかはもう1、2年の間にもものすごく広大な地続きの田んぼが一気に工業団地になっているのとかを10か所くらい見ている「これ怖いな」と思っていて、広大なところ、野鳥観察ができるところも全部工業団地になっていて。雨が降ったら水はどこに行くんだ、今までは田んぼに貯まっていたのに、当然食料も作れなくなる。で、たまたままだ潰されていない「海上の森」というのは貴重な部分かなと。面積的にはそこまで多くないかもしれないですけど、田んぼなんかでも人手がなくても、今ちょっと調べると、水を稲刈りした後に水貯めっぱなし、刈った後に耕起も何もせずに、翌年稲も何も作らずに、田植えもせずに綺麗に実るらしいんですね。そういうやり方も検討しながら、ちょっとずつでも知恵が出て生活ができるようになれば。あとはこちらのセンターさんは関心を集めるためにSNSの発信もそうですし、そこらへんの活用を徐々に。あまりみんなで頑張って人手かけてお金かけてやらなくてもできればなと願っております。

【座長】あの「稲の多年草化」という、一部の界限では盛り上がっているのですが、それができたら本当にいいと思いますね。色々なやり方が今出ているので、少なくとも里の草刈りだけやっているところは米が作れるようにできるといいなと。

はい、ありがとうございました。では議事のほうは終わって、傍聴人の方、発言があれば。

(傍聴人より発言)

【座長】 はい、ありがとうございました。ではこれで議事を終わりたいと思います、どうもありがとうございました。

【事務局】 ○○座長、委員の皆様、傍聴人の皆様、ありがとうございました。これで終了させていただきます。

【○○委員】 ちょっとごめんなさい、これの紹介だけ。昨年やりました「あいち海上の森フォーラム」の報告書ですので、お目を通していただきたいと思います。先ほど話しましたカザグルマの研究報告もですね、こちらに載せておりますので、見ていただきたいと思います。それと特別講演をやっていただいた藤井一至先生ですけれど、「土と生命の 46 億年史」という新聞記事をお出ししていますけれども、昨年 12 月に本を出されまして、日経新聞には紹介されていると思うのですけれども、ぜひご興味あれば見ていただければと思います。以上です。

【事務局】 資料のほう、○○委員からも配布いただいておりますので、よろしくお願ひします。

それではこれで終了させていただきます。次回は 8 月を予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。